

From Bangkok **Sà-wát-dee** สวัสดี



バンコク日本人学校
26派遣 坂井啓介
サワディー通信 No.1
平成26年5月25日

バンコクでの生活スタート！

日本のみなさん、サワディークラブ！東京、羽田空港から約5時間の空の旅を経て、ついにバンコクにやってきました。スワンナプーム空港を出たとたんの熱気！！南国に来た、と実感した瞬間でした。

さて、記念すべき第1号は、バンコクについての簡単な説明と、バンコク日本人学校について紹介です。

★長い正式名称！

いきなりですが、我々が「バンコク」と呼んでいるこの街の正式名称はとても長く、

クルンテープマハナコーンアモーンラッタナコーシン・マヒンタラアユッタヤー・マハーディロック
カポップ・ノッパラッタナラーチャタニーブリーロム・ウドンラーチャニウチェットマハーサターン
・アモーンラピーンアワターンサティット・サッカタットティヤウィサヌカムプラシット

というそうです。何かの呪文のようですね。いつもこの調子でしゃべっていると落語「寿限無」のようになりそうです。そこで、普段は最初の方の「クルンテープマハナコーン」または「クルンテープ」と呼んでいます。意味は「天使の都」だそうです。さすが、「ほほえみの国」ですね。

★タイのお正月！？

こちらに来てすぐに「ソングラン」というタイの旧正月がありました。もともとは新年を祝う行事ですが、バンコク市内では、近年お祭りのような要素が強く、「水かけ祭り」となっています。タイではこの時期（4月中旬）が1年で1番暑い時期であることもあり、通りのあちらこちらで水をかけ合うすがたが見られました。多くの方は水鉄砲を持ち、道行く人・バイク・車とおかまいなしに水をかけています。見知らぬ外国人だからといって容赦はなく、気をつけないと、トラックの荷台からもかけられてしまいます。



水かけの様子。かなり見えにくいですが、みんなずぶ濡れです。

★タイの日本人

在タイ日本国大使館の統計によると平成24年度には約5万5千人の日本人がタイで暮らしています。現在、その数はさらに増え6万人を超えと言われています。様々な業種の企業が進出しており、街中でも日本語の看板は珍しくありません。ちょっとした路地に見慣れた店を見つけ驚くこともあります。



ここは日本？と思うほど。手前の電信柱にはタイ語が書かれています。

バンコク日本人学校について

タイの日本人学校は泰日協会学校といい、バンコクとシラチャの2つの日本人学校があります。タイの法律では外国(法)人による学校の設立が認められないため、タイと日本との友好親善促進を目的として設立・運営されている泰日協会というタイ法人が本校の設立母体となっており、これが本校の正式名称の由来です。(英語の表記はThai Japanese Association Schoolとなります。)

タイの私立学校法に基づく私立学校ですが、基本的には日本の文部科学省のカリキュラムに基づいて、日本の教員資格を持った日本人の教員が、日本語で、日本の教科書を使って授業を行っています。

★世界最大の日本人学校

平成26年4月現在の在籍児童生徒数は小学校が2392人、中学校が662人となっており、合わせて3000人を超す日本人学校の中でも最大規模の学校です。私が担任している1年生は14クラスあり、427人が学んでいます。

★通学バス

ほとんどの児童生徒が通学バスを利用しています。日本人家庭の多くは、外国人向けのマンションに住んでおり、子どもたちはそこからバスで学校にやってきます。バンコク日本人学校は街の中心から少し離れたところにあるため、特に下校時には渋滞に巻き込まれ、普段なら20分で着くところが2時間近くかかることもあります。



大小様々なバスがずらっと並ぶ駐車場。全校が一斉に下校する金曜日には約160台のバスが子どもたちを自宅へ送り届けます。1年生にとっては自分の乗るバスを探すだけでも大変です。

★タイ語の授業、日本語の授業



タイの私立学校法に基づく私立学校であるバンコク日本人学校は、週1時間のタイ語の授業が義務づけられています。1年生でもあいさつや自己紹介の仕方などをタイ人の先生と一緒に勉強します。クラスには母親がタイ人で、タイ語がペラペラの児童もいます。

また、二重国籍を持つ児童を対象に日本語を学習する時間もあります。両親のどちらかがタイ、もしくは日本以外の国出身の家庭では、日本語にふれる時間が少なく、十分な語学力を身につけることが難しいからです。

35度を超える暑さの中、鉄棒は熱すぎてさわれませんが、子どもたちは元気いっぱい学校生活を送っています。タイならではの環境を生かした取り組みも目くあります。次号をお楽しみに。